

石島会計メモ



中央区日本橋本石町 4-5-12
友泉本石町ビル 3階
石島公認会計士事務所
(03)3275-1311
発行責任者 石島慎二郎

2025年2月号

暦年か精算か

贈与税の2つの課税方法

親から子へお金をあげる場合など、誰かから誰かへカネ・モノをタダで渡す場合、一定金額以上になると贈与税がかかります。

贈与税が生じる場合は申告が必要となりますが、その申告方法には、**暦年課税**と**相続時精算課税**（以下、「精算課税」）の2つがあります。今回はその2つがどのように異なり、どう使い分けるべきか見ていきたいと思います。



暦年課税とは

暦年1年間（1月～12月）の贈与金額合計が非課税枠の110万円を超える部分に対して贈与税がかかる課税方式を「暦年課税」といいます。

暦年1年間の贈与（を受ける）金額の合計が110万円以内であれば、贈与税はまったくかからず、申告も不要です。110万円を超える場合は、その超える部分の金額に応じた税率で贈与税が課されます。

例えば、親から子が1年間で受けた贈与額合計が300万円であれば、

$$(300 \text{ 万円} - \text{非課税枠 } 110 \text{ 万円}) \times \text{税率 } 10\% = \text{贈与税 } 19 \text{ 万円}$$

のように計算されるのです。この税率は贈与額が大きくなるほど上昇し、最高55%もの税率になります。



暦年課税の弱点

例えば、親から子へ毎年100万円の贈与をしたとします。1年間で110万円以下なので贈与税はかかりません。しかし、この贈与していた親が亡くなったとき、最長7年前までに贈与した部分に関しては、相続財産として相続税の計算に含められてしまうのです（贈与の持ち戻し※）。

せっかく贈与をしていたのに、贈与して間もなく相続が発生（贈与者が死亡）してしまうと、結局相続税で取り戻されてしまいます。

※持ち戻しされるのは相続・遺贈で財産を取得した相続人等に限られます。

精算課税とは

こちらは、届け出を出すとそれ以降の贈与に対して 2,500 万円の非課税枠が設定される制度です。さらに、令和 6 年 1 月以降の贈与に関しては、毎年 110 万円の基礎控除を受けることができます。

特に強力なのは、精算課税を適用し毎年 110 万円以内の贈与であれば、暦年課税のように相続財産に含める必要はない（持ち戻しが発生しない）ことです。また、110 万円を超えたとしても、半永久的な非課税枠である 2,500 万円以内である限りにおいては、贈与税はかかりません。

精算課税の弱点

とても聞こえの良い相続時精算課税ですが、弱点もあります。毎年の基礎控除 110 万円を超えても累計で 2,500 万円まで贈与税はかかりませんが、110 万円を超えた部分は贈与者の相続が発生した際、持ち戻しされ相続税は課される可能性があるのです。しかも、持ち戻しが最長 7 年であった暦年課税と異なり、何年前のものであっても持ち戻しがされてしまいます。

また、相続時精算課税を適用する届け出を提出すると、もう二度と暦年課税に戻ることはできません。これが判断を悩ませる大きな要因となります。



どちらの課税方式とすべきか

相続の発生がいつになるかわからない以上、どちらが有利か明確に判定することは困難であり、110 万円を超える贈与を計画している場合は、単純に決められません。相続時精算課税では 2,500 万円の非課税枠がありますが、あくまで贈与税の非課税枠であり、持ち戻しが発生してしまうからです。暦年課税であれば、最長 7 年間は持ち戻しの可能性があるものの、逆に 7 年よりも前の贈与分は持ち戻しがされないのです。

一方、毎年の贈与額が 110 万円以内であり続けるのであれば、相続時精算課税を適用してしまった方が有利な可能性が高いといえます。なぜなら、基礎控除 110 万円以内で一切贈与税がかからず、持ち戻しで相続税の対象となることもないからです。贈与はするけれど毎年の贈与額が 110 万円以内に決まっている方は、相続時精算課税を適用した方が良い可能性が高いです。

石島会計では精算課税の届け出のご注文も承っておりますので、気になる方はご相談ください。

(文章 石島慎二郎)

トラベラーSat o の諸国漫遊記 VOL.17

(文章:佐藤篤司)

皆さん旅していますか？今回の諸国漫遊記は昨年12月バースデイトラベルで訪問した西表島をご紹介します。西表島には3度目の訪問となりますが、滞在したのは今回が初めてです。八重山諸島の秘境「西表島」の大自然に囲まれての5日間、スローライフを満喫するぞ～！ (^.^)/オ-

西表島ってどんな処？

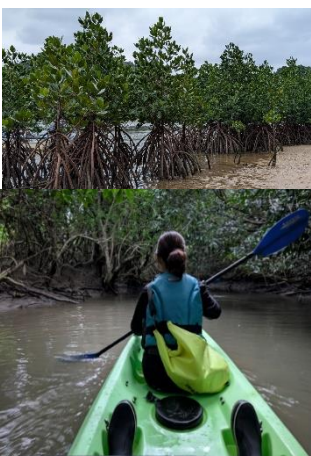
西表島は八重山諸島最大の島です。人口 2,400 人、西表島より小さな石垣島の人口が5万人と考えると如何に人の姿を見ることの少ない島なのかお分かりになるかと思います。周囲130kmと大きな島ですが、その90%が亜熱帯ジャングル！今回来島した12月の平均気温は20℃前後ですが、降水量の少ないこの時期でも時折ジュラシックな雰囲気を出し出す霧雨が降り出します。

どうやって行くの？

西表島に行き着くためにはしっかりとした計画が必要です。タイムテーブルをしっかり作成しないとその日の内にたどり着けないかも。オーソドックスな行き方は羽田から直行便(又は那覇空港経由)で新石垣空港へ、空港からバスで30分揺られて石垣港へ向かいます。石垣港から高速船で西表島の上原港行き(冬季は9割欠航)又は大原港行きに乗船します。大原港から上原港周辺に集中している宿泊施設まで路線バスで1時間以上かかります。1日4便しかないなので必ずホテルの送迎時間を確認しましょう。トラベラー一行は自宅からホテルまで11時間かかりました。(^^;)

島での過ごし方は？

訪問して実感しましたが、バスもタクシーも殆どないと思った方がよい島ですので、レンタカーが必須です。小さなレンタカー会社が2件しかないなので、出発前にホテル配車で予約をお勧めします。運転免許の無い方は現地ツアー会社かホテルのアトラクションに参加しましょう。お勧めは今回の滞在先「星野リゾート西表島ホテル」主催で無料のマングローブウォークとジャングルウォーク、有料のクーラの滝





カヤック&沢歩きです。レンタカーで動ける方は仲間川マングローブクルーズと西表野生生物保護センターと由布島水牛車などを個人で回れると、時間に縛られずリーズナブルに楽しめます。また是非とも行って頂きたいのが舟浮集落です。人口40人の集落には道路が繋がっていない為、白浜港から渡し船で訪問します。学校はありますが生徒数は現在一人だけです。港からジャングルを10分程歩くと秘境中の秘境「イダの浜」に到着します。人が殆どいない美しいホワイトサンドビーチでプライベート気分を満喫してみませんか？



西表島のグルメは？



冬の時期は琉球イノシシやガザミ料理が名物ですが、飲食店が少ないので、まずは食事の美味しいホテルに泊まりましょう。ホテルで食べたスペアリブと海老のつくね焼はそれを目当てに再訪したくなる程の逸品でした。また白浜港でひっそりと営業されているナナシカフェで島時間を楽しみながら、台湾&ベトナムランチを頂きました。シェントウジャン、バインセオ、生春巻き等全てが美味でした。ディナーは初来店時にアクシデントにより思いがけず無料にして頂いた事もあり、2日連続で伺うこととなった「巴里のごはんや」が大々的にお勧めです。多国籍料理でその日食べたいものが必ずあります。メニューも64種のドリンクと77種のフードから選べ、その全てが美味しいと言っても過言ではありません。特にお勧めはとろとろソーキの炙り焼きと魚介のブイヤベース、是非ともご賞味あれ！！ダンディなご主人



と気さくな奥様が営む西洋居酒屋、皆さんも西表島来島時には是非とも訪問してみてください。

行き着くのは大変ですが、島時間には都会にいる時に感じる時間の経過をゆっくりと感じさせてくれるような効果が有るようです。島にいたのは3日余りでしたが思い返せば、1週間くらい過ごしていた気持ちにさせられます。皆さんも自然度90%のネイチャーアイランド西表島でスローライフと大自然を満喫しにお出かけしませんか？

それでは Bon Voyage! マタネ! (°-^*)/~